

令和5年度白井市施策評価 外部評価結果報告書(案)

令和5年 月
白井市総合計画審議会

目次

1	報告に当たって.....	1
2	令和5（2023）年度外部評価の概要.....	2
	（1）外部評価の対象.....	2
	（2）外部評価の視点及び評価基準.....	3
	（3）外部評価の実施方法.....	4
	（4）当審議会の開催経過.....	4
	（5）当審議会の構成.....	5
3	令和5年度外部評価の結果.....	6
	（1）評価結果の総括.....	6
	（2）施策別の評価結果.....	7
4	各委員の評価結果.....	9
5	今後の外部評価に向けて.....	31
	参考資料.....	32

1 報告に当たって

白井市では、平成25年に千葉ニュータウン事業が収束し、これまで増加し続けてきた人口も減少に転じ、少子化・高齢化の一層の進展が見込まれるなど、これまでの量の拡大を基調としたまちづくりから、質の向上や地域資源の活用を基調とした持続可能なまちづくりへと、新たなステージに突入しています。

このような中、当審議会は、平成28年度から令和7年度までの10年間を対象期間とする白井市第5次総合計画（以下「総合計画」という。）や、総合計画の前半5年を期間とする前期基本計画、後半5年を期間とする後期基本計画の策定に携わってきました。

総合計画では、白井市を次世代に良好な形で継承していくため、将来像に「ときめきとみどりあふれる快活都市」を掲げ、その実現に向けて3つの重点戦略（若い世代定住プロジェクト、みどり活用プロジェクト、拠点創造プロジェクト）を定めています。

そして、3つの重点戦略を推進するため、前期基本計画の取組の成果や課題を検証した上で、令和3年度から令和7年度までを期間とする後期基本計画を策定し、8つの施策（戦略の柱）に取り組んでいくこととしています。

総合計画の実効性を確保するためには、行政活動を客観的に評価して、限られた行政資源（人・物・金・情報・時間）を組織全体で最適に配分するためのマネジメントの仕組みである行政評価を適切に機能させることが不可欠であり、行政評価に基づいて、市民ニーズに真に合致したサービス、納税者である市民が納得するサービスを提供することが求められます。

このため、白井市では、総合計画の実現を下支えする白井市行政経営指針に基づき、大局的な視点で市民にとっての成果を捉えるために、平成29年度から実施計画事業より1階層上である施策を対象とした施策評価を導入しました。さらに、行政評価の客観性・透明性を確保し、市民や専門家の視点から行政活動の改善を進めるため、施策評価に当審議会による外部評価を導入しました。

当審議会では、後期基本計画の2年目である令和4年度の施策への取組成果について、内部評価の結果を踏まえ、昨年度に引き続き、後期基本計画から新たに取り入れた「ロジックモデル」を意識しながら、まちづくりの進め方の柱である「情報・共有」「持続可能な行財政運営」「参加・協働」が図られているかの観点からも検証し、各委員がそれぞれの立場から、その知識や専門性、経験を活かして外部評価を実施し、行政では気づきにくい視点や、市民に近い視点から意見を取りまとめました。

当審議会の意見が、庁内における活発な議論に活用され、施策のより一層効果的な推進が図られるとともに、白井市の行政評価制度が円滑に機能するための一助となるよう、本報告書を提出します。

白井市総合計画審議会 会長 関谷 昇

2 令和5(2023)年度外部評価の概要

(1) 外部評価の対象

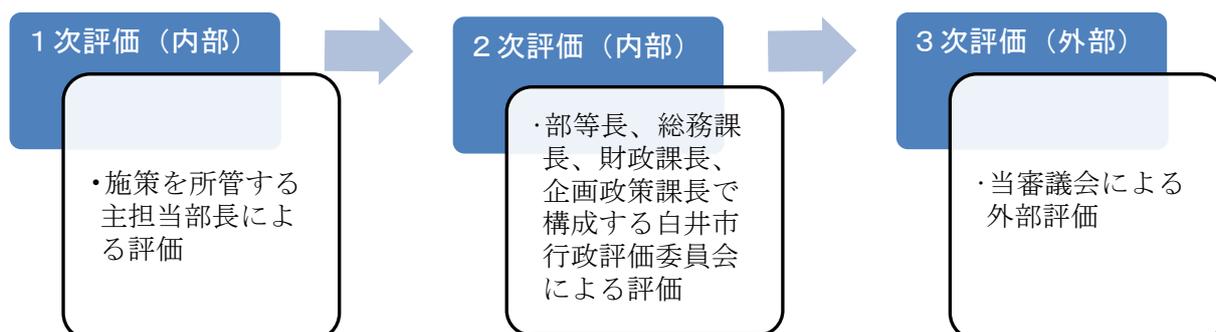
白井市では、8つの施策全てについて、当該施策を所管する主担当部長による1次評価と、庁内の行政評価委員会による2次評価を実施しています。

当審議会では、8つの施策全てを3次評価の対象とし、令和4(2022)年度から令和5(2023)年度の2年間に分けて外部評価を行う方針のもと、今年度は令和4年度に実施した施策以外の4施策を選定し、3次評価として外部評価を実施することとしました。

【評価対象】

重点戦略	施策	評価対象		主担当部
		令和4 (2022)	令和5 (2023)	
戦略1 若い世代定住 プロジェクト	1 ゆとりある暮らしを感じるまちづくり	○		都市建設部
	2 働く場を生み出すまちづくり		○	市民環境経済部
	3 子育てしたくなるまちづくり	○		健康子ども部
戦略2 みどり活用 プロジェクト	1 「かかわれる農」のまちづくり		○	市民環境経済部
	2 みどりを育み活かすまちづくり		○	市民環境経済部
戦略3 拠点創造 プロジェクト	1 都市拠点がにぎわうまちづくり	○		都市建設部
	2 地域拠点でつながる健康なまちづくり	○		市民環境経済部
	3 拠点を結ぶまちづくり		○	都市建設部

《参考》外部評価までのフロー



(2) 外部評価の視点及び評価基準

当審議会では、各委員が主に9つの視点に基づき、視点ごとに4段階で評価を行いました。

また、これらの視点に限らず、各委員のそれぞれの知識や専門性、経験に基づく視点からも意見を述べました。

ア 外部評価の視点

項目	内容
取組状況	①目標実現に資する取組となっているか。
	②市民ニーズに即した取組となっているか。
	③各分野間で必要な連携が図られているか。
	④市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。
成果	⑤目標実現に向けて成果は上がっているか。
	⑥1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因的確にとらえられているか。
課題・方向性	⑦問題・課題が的確にとらえられているか。
	⑧今後の方向性・進め方は的確か。
分かりやすさ	⑨市民に分かりやすい記載となっているか。
総合評価	施策の総合評価

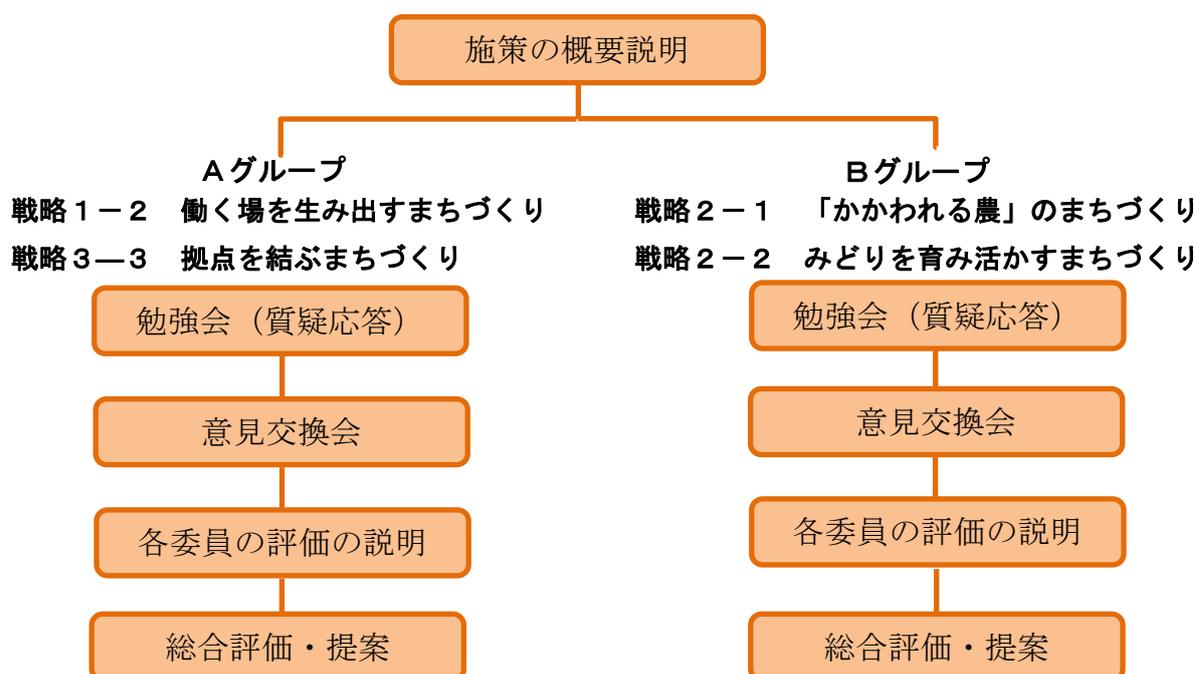
イ 評価基準

類型	内容
A	優れている（期待を上回る、非常に的確に捉えている）
B	やや優れている（期待をやや上回る、妥当である）
C	やや劣っている（期待をやや下回る、評価が過大過小又は記載内容に不足がある）
D	劣っている（期待を下回る、評価が大きく過大過小又は記載内容に多くの不足がある）

(3) 外部評価の実施方法

当審議会では、施策への取組状況や庁内での1次・2次評価結果などの説明を受けた後、施策への取組や成果等に関する理解をさらに深めるため、2グループに分かれて、担当課長との質疑応答形式による勉強会を実施しました。

その後、各委員が自身の評価内容を述べ、委員間での協議した後、当審議会として最終的な総合評価を決定し、今後の取組の改善に向けた提案を行いました。



(4) 当審議会の開催経過

開催日	開催回	内容
令和5年 6月9日（金）	令和5年度 第1回	・施策評価の1次・2次評価結果の説明
7月19日（水）	第2回 (Aグループ)	・勉強会（担当課長との質疑応答） ・意見交換会（ワークショップ）
7月21日（金）	第2回 (Bグループ)	・勉強会（担当課長との質疑応答） ・意見交換会（ワークショップ）
8月4日（金）	第3回	・外部評価の実施（各委員の評価の発表、 総合評価の決定、改善に向けた提案）
10月20日（金）	第4回	・外部評価結果及び市の対応方針及び外部 評価結果報告書について

(5) 当審議会の構成

氏 名	所属・役職等
関谷 昇 (会長)	千葉大学 大学院 社会科学研究院 教授
野水 俊夫 (副会長)	一般社団法人白井工業団地協議会 顧問
鎌田 元弘	千葉工業大学 創造工学部 都市環境工学科 教授
手塚 崇子	川村学園女子大学 教育学部 幼児教育学科 教授
飛田 毅	自治連合会 会長
松本 千代子	社会福祉協議会 会長
中野 七生	P T A連絡協議会
秋本 茂雄	農業研究会 副会長
宇賀 弘通	商工会 総代
近藤 恭子	母子保健推進員協議会 副会長
宇賀 博	公募
酒井 啓史	公募
中原 恵子	公募
福田 純子	公募
若旅 千秋	公募

任期：令和2年11月20日から令和5年11月19日まで

3 令和5(2023)年度外部評価の結果

(1) 評価結果の総括

ア Aグループ

① 評価体制

関谷会長、野水副会長、鎌田委員、酒井委員、中原委員、飛田委員、中野委員、宇賀（博）委員、若旅委員

② 総合評価

【戦略1-2 働く場を生み出すまちづくり】

最終評価：B

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員	H 委員	I 委員
B	C	B	C	C	B	B	B	B

【戦略3-3 拠点を結ぶまちづくり】

最終評価：B

A 委員	B 委員	C 委員	D 委員	E 委員	F 委員	G 委員	H 委員	I 委員
B	C	B	C	C	C	B	B	B

イ Bグループ

① 評価体制

関谷会長、野水副会長、手塚委員、福田委員、近藤委員、秋本委員、松本委員、宇賀（弘）委員

② 総合評価

【戦略2-1 「かかわれる農」のまちづくり】

最終評価：C

J 委員	K 委員	L 委員	M 委員	N 委員	O 委員	P 委員	Q 委員
B	C	C	C	C	C	C	B

【戦略2-2 みどりを育み活かすまちづくり】

最終評価：B

J 委員	K 委員	L 委員	M 委員	N 委員	O 委員	P 委員	Q 委員
B	B	B	B	B	B	C	B

※最終評価は、各グループの委員間での協議の上、当審議会として決定した最終的な総合評価です。

(2) 施策別の評価結果

【戦略1-2 働く場を生み出すまちづくり】

重点戦略	1 若い世代定住プロジェクト
主担当部	市民環境経済部
目標実現に向けた取組	○工業団地などへの就業支援 ○異業種・異分野間のネットワークづくりによる交流・連携の支援 ○起業希望者に対する相談・支援
内部評価 (進捗状況)	おおむね順調
外部評価 結果	総合評価は「B評価 (やや優れている)」とし、今後に向けて以下の改善点を提案する。 ① 企業誘致について、地区まちづくり協議会で進められているが、市が目指すイメージや進捗状況について、可能な範囲で情報発信すること。 ② 地域の暮らしや就労等をめぐる白井の特徴を積極的に描き、就労ニーズ、創業ニーズ、若者のニーズを明確にし、具体的に示していくこと。 ③ 成田空港の機能拡張の完成年度に合わせるなど、企業誘致の期限を決めて、他の施策との連動を図り、一体的に進めること。

【戦略2-1 「かかわれる農」のまちづくり】

重点戦略	2 みどり活用プロジェクト
主担当部	市民環境経済部
目標実現に向けた取組	○多様な形態の農業経営と担い手の支援 ○農商工や産官学の連携による農産物の高付加価値やブランド化 ○白井産農産物の販売や販売形態の充実 ○だれもが農に親しめる環境づくり
内部評価 (進捗状況)	遅れている
外部評価 結果	総合評価は「C評価 (やや劣っている)」とし、今後に向けて以下の改善点を提案する。 ① 農業振興のトータル的なコンセプトとロードマップを明確にし、具体的な戦略のもとに施策を展開していくこと。 ② 新規就農者・若者後継者など農にかかわるターゲット層に応じた支援・連携を図ること。 ③ 販路拡大や6次産業化に向けた積極的な働きかけを行い、市内外の関係者・希望者が積極的に携わっていくことができる道筋を作っていくこと。 ④ 梨農家が減少していく将来を見越した上で、梨のブランド化の必要性を農家に理解してもらうよう進めること。

【戦略2-2 みどりを育み活かすまちづくり】

重点戦略	2 みどり活用プロジェクト
主担当部	市民環境経済部
目標実現に向けた取組	<p>○白井の自然環境の豊かさを知り育むための環境学習の推進</p> <p>○市民によるみどりのネットワークづくりに対する支援</p> <p>○地域での環境保全や創出の取組としてのグラウンドワークの推進</p> <p>○自然とのふれあいや癒しの場としての里山の保全と活用</p>
内部評価 (進捗状況)	おおむね順調
外部評価 結果	<p>総合評価は「B評価(やや優れている)」とし、今後に向けて以下の改善点を提案する。</p> <p>① 市、市民、企業等、関係団体同士が連携することで何ができるかを検討するプラットフォームの形成を図ること。</p> <p>② 活動に参加する市民の高齢化が懸念されるが、市としても市民活動が無理なく安全に継続できるよう対応策を講じること。</p> <p>③ 市民が環境を意識した日常生活を送ることができるようにするための効果的なPRや、新たな担い手の発掘を行うこと。</p>

【戦略3-3 拠点を結ぶまちづくり】

重点戦略	3 拠点創造プロジェクト
主担当部	都市建設部
目標実現に向けた取組	<p>○幹線道路沿道などにおける開発誘導</p> <p>○都市拠点と各地域を結ぶ道路ネットワークの構築</p> <p>○利便性の良い公共交通ネットワークの確保</p>
内部評価 (進捗状況)	おおむね順調
外部評価 結果	<p>総合評価は「B評価(やや優れている)」とし、今後に向けて以下の改善点を提案する。</p> <p>① 「拠点」の定義について部署によって捉え方が異なることや、市民目線、行政目線など視点によっても異なるため、「拠点」の考え方を明確化すること。</p> <p>② 道路の計画や整備状況などを定期的に市民に情報発信すること。</p> <p>③ バス・鉄道・道路などのそれぞれの取組みを「点」から「線」、「面」で捉え、広域的な視点を持って進めること。</p>

4 各委員の評価結果

【戦略1-2 働く場を生み出すまちづくり】

■A 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	A	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	現段階では工業統計の結果が出ていないので評価できない。農業との連携もみえない。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	A	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	A	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

・成田空港の機能拡張の完成年度に合わせるなど、企業誘致の期限を決めて、戦略1-2、戦略3-3を一体的に進めてほしい。

■B 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	就業希望者に対応出来ているか（高齢者以外の応募はあるのか）
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	ネットワークの構築
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	若者が定着出来る施策を（娯楽施設等の誘致）
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	野菜工場等の構築
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	

改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	後継者問題
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	観光農園の構築
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	セミナーや講演会などの情報発信
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

--

■C 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	A	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	A	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	A	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

--

■D 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	各分野・部署の意見等、連絡調整を担う部署が必要ではないか
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	

成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	長期的な目標の為、成果が見えづらいのと思います。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	各部署によって分析はされていると感じる。
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	白井市のアピールポイントを明確にする。 特性を活かした地区わけの実施
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	専門用語など多く、伝わりにくいと感じる。
総合評価	施策の総合評価	C	取り組みはされている事は、理解しましたが成果につながっていない。

《今後に向けた改善提案等》

・1つの案件に対し、複数の取り組みが見えており課題の整理が必要と感じました。白井市として働く場を増やし求人につなげるのか、その先の定着・定住につなげるのかシンプルにしておくのがいいように感じました。

■E 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	C	そもそも企業ニーズ・就労ニーズが明確にされていない。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	若い世代のニーズが必ずしも明確になっていない。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	D	若者の就労機会の創出や起業へ向けた包括的支援をめぐる戦略的視点が根本的に欠けている。
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	C	働く場・機会・環境をめぐる総合的・有機的な組み立てが弱い。

《今後に向けた改善提案等》

・企業誘致にストーリー性を作り出すことで、地域産業の求心力と具体性を高める必要がある。地域の暮らしや就労をめぐる白井の特徴を積極的に描き、若い世代にとって何が魅力的なのかを具体的に示していく必要がある。総じて、行政と産業・研究・市民が創意工夫を発揮し、具

体的な動きを創出するプラットフォームを形成・運用していくことが求められていると思われる。

■F 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	地区まちづくり協議会等、どのように進捗しているか情報発信が必要である。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	ニーズに即した取組が成果となっているかの検証も必要となる。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	各分野間での情報発信、連携する事業内容が今一つ分かり難い。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	地区まちづくり協議会についても意識調査などによりニーズの把握が必要で、情報共有の有効性は見え難い。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	目標値の設定が無く、また、実績が下がっている事業もあり対策が必要となる。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	実績値が低下している事業もあり、再度検証が必要である。
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	施策を分かり易く提示する必要がある。
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	若い世代にとって魅力ある産業や雇用創出に繋がるよう施策を展開してもらいたい。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	専門的な用語というより、情報公開により施策の内容等を提供する必要がある。
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

- ①企業立地奨励金制度の取組みは課題を整理しているが、対象は「市街化区域に事務所を設定した事業者への支給」となっており、現在「空地が無い」中で目標値（指標）もなく、必ずしも有効な施策とは言い難いと思われ、当後期計画の中で更なる検討が必要と考える。
- ②事業の指標が設定されていないものがあり、着実に進んでいるとは言い難いところもある。「情報発信ツール」や部署間の連携、また昨年同様、見せ方の工夫も必要であると考えます。
- ③求める成果は「若い世代にとって魅力ある産業や雇用が整い、職住接近が進む」であることから、分かり易く、魅力ある伝達方法で発信して貰いたい。

■G 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	既存の空き地や取得予算がない制約下において、まちづくり条例で民有地のマッチングを支援するというのは、妥当な現実解として評価します。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	市民目線では、コンパクトシティである白井市内の土地利用が最適化され、ポテンシャルが最大化されることを望んでいます。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	市の掲げる「異業種・異分野間の交流やネットワークづくりを進め、新しい産業の創出」がより具体的な成功事例を発信出来ることを望みます。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	地区まちづくり協議会は、性質上どうしてもクローズドになると思うが、上記の市民ニーズを上手く吸い上げて推進の追い風にしてほしい。

成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	A	地区まちづくり協議会が着実に設立されてきていること、市がコーディネート役を務めていることを評価します。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	A	的確だと思います。
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	駅周辺に居住する若い世代と、工業団地の就労層のミスマッチや、梨のまちとしての農業振興とのバランスなども、課題なのかなと感じました。
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	上記のような課題を踏まえた改善策がどこまで具体的になっているのかが、わかりにくい。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	審議会での多くの市民から指摘のあったとおり、市が目指すイメージが市民に届いているとは言い難いので発信力強化を検討してほしい。
総合評価	施策の総合評価	B	「市民等との役割分担」「市民等も理解しやすい表記」に改善の余地を認めます。

《今後に向けた改善提案等》

--

■H 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	地域に雇用を確保していく、重要な施策としての位置づけがまだ弱いのではないかな。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	市内だけでなく、隣接市、県との連携の中で、補完的な関係性を構築して進める必要がある。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	産業振興ネットワーク会議の活動の広がりを活かしていけないだろうか。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	具体的に雇用に結びつく取り組みとなっていなかったが、最近は見直しが進んで来ている。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	人口減少社会の中で、白井市だけでなく、鎌ヶ谷市、印西市との連携強化を模索する。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	
総合評価	施策の総合評価	B	地域に安定した雇用と納税を確保していく上の重要課題との位置づけを明確にして進めつつある。

《今後に向けた改善提案等》

--

■ I 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	A	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	A	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	A	地区まちづくり協議会との更なる連携を望みます。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	A	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	A	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

- ・ 相談、支援策等実施している事業のPRを拡げ、より多くの市民に周知してほしい。

【戦略3-3 拠点を結ぶまちづくり】

■A 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	A	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	A	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	原因の分析が不十分
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

・成田空港の機能拡張の完成年度に合わせるなど、企業誘致の期限を決めて、戦略1-2、戦略3-3を一体的に進めてほしい。

■B 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	アクセス道路整備の取り組みは進んでいるようだがインターチェンジ周辺の取組は物流が動き出し道路混雑対応として早期実施を
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	既存の計画路線の進捗状況は、又、小学校区まちづくりは4件目、5件目と推移しているが拠点となる街づくり協議会の推移は
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	市民に対しての情報や施策が伝わっていない。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	各種団体や関係者に情報が伝わっていない。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	

改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

--

■C 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	A	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	A	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	A	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

--

■D 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	C	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	各部署での求めている達成値や、関わり方が違う為に取り組んでいるも、そこから先の連携が難しいのかと感じました。

	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	縦のつながりはあるも、各部署の横の連携は難しいのかと思いましたが、各部署の意見を取りまとめる調整部署等があると良いのかと思いました。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	専門用語など多く、伝わりにくいと感じる。
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

・拠点を結ぶという事で、市民目線の拠点・行政目線の拠点等、複数の拠点の解釈や受け取り方によって方向性が変わってしまうのかと思います。白井市が強く押していきたい拠点が何なのか明確にさせていただいた方が、委員として踏み込んだ回答なり意見が出せる気がしました。

■E 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	産業機能の集積に向けたビジョンの説明がない。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	交通弱者への視点が弱い。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	拠点をめぐる理解が曖昧なので、どのような政策連携がどのような効果を生むのかということが整理されていない。
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	D	拠点をめぐる理解が散漫であり、何をいかに結ぶのかという包括的・戦略的視点が欠如している。
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

・道路・交通・産業に関連する拠点を結ぶことで、各々の賑わいを創出するとして、何をもっての賑わいなのか、それらがどのように結びつくと何が変わるのか、重層的・立体的に考える必要がある。成長的視点と福祉的視点を融合させた多角的ネットワークをトータルに構想し、そのなかで個々の取り組みを位置付けていくことが求められていると思われる。

■F 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	成果（長期成果）に向かっているかについて、現時点では明確ではない。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	ニーズに適しているかは把握されていない。更なる検証が必要。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	各分野の連携は分かり難い。「構想道路」の意思決定が不明確である。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	更なる市民の情報把握が必要
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	実績が下がっている事業もあり、更なる対策を検討する必要がある。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	評価指標の設定が無い事業あり。「評価基準」だけでは原因が分かり難い。
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	課題は整理されているが、目標値（指標）がなく、後期計画での実施成果も見え難い。
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	施策の目標値が定められていない事業あり、成果も分かり難く改善も必要とされる。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	施策が分かりやすく説明されていないものがあり、具体的な施策（事業）として伝わって来ない。情報伝達の工夫もされたい。
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

- ①企業立地奨励金制度の取組は課題を整理しているが、目標値（指標）がなく、後期計画で検討・実施が不明である。
- ②構想道路の最終目標、“企業の誘致”には一定の理解があるが、当基本・実施計画で施策実現に向け分かり易く提示する必要がある。担当部局間の連携、目標値の設定や市民への早急な周知が必要となる（政策決定し計画道路として進める必要が考えられる）。
- ③バス交通のニーズについては、インフラ整備と共により有益となることが想定されるため、今後とも実情を踏まえ利用促進に繋げられたい。

■G 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	取組が、企業目線（構想道路）と、住民目線（鉄道・バス）とに2極化している構図のため、戦略として一体で評価する難しさを感じました。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	産業道路ではない。市民ニーズに即した道路整備への熱量が弱いと感じました。鉄道・バスについては概ねよいと思います。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	「拠点」という定義一つとっても、市役所内の各部署で捉え方が異なる印象でした。大きな課題と感じ

			ました。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	木十余一線以外の、市民生活に密着した道路整備については、事業の進捗が見えないので、もっと情報共有をしてほしいと感じます。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	定量的評価を見るに目標値の点ではクリアしているように見えますが、市民の肌感覚と合致しているかという面においてはやや疑問が残る。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	北総線の値下げPRや、バスロケーションシステム導入決定以外の進捗状況は、現段階ではなかなかわかりにくい。
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	A	ネットワーク整備が中長期的な取り組みとならざるを得ない点や、人口構造の変化を考慮する点は、同意します。
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	各論では的確なのだと思うが、それはいわば「点」なので、「線」「面」で捉えてほしい。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	構想道路の整備によって市が目指す戦略ビジョンはもっとアピールしてよいと思う。
総合評価	施策の総合評価	B	期待を上回るとまでは言えないが、予算的制約が大きい中での進捗としては妥当かと思う。

《今後に向けた改善提案等》

<ul style="list-style-type: none"> ・「都市拠点と各地域の拠点をネットワーク化」という取組目標を掲げているが、内容は抽象的。これをもっと具体的に、市民に対してわかりやすいイメージを描いて伝え、期待と魅力を高めてほしい。

■H委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	北総鉄道の運賃について、学割は大幅に下がり、今後も、事業者と強調して利用者を増やし、一層の運賃値下げへと移行させる取り組みを進める。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	進まない道路に関しては、年に一回程度状況の説明を広報紙に載せてみてはと思います。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	工業団地へのルート、七次台小学校への通学路等、重要な道路が事情はあるでしょうが止まったままになっており、臨時的な解決も期待したい。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	道路計画にも財政的な裏付けが必要で、税収増となる企業誘致も含めて
	今後の方向性・進め方は的確か。	A	道路の整備は、現状重要な課題ですので、今後も継続的に取り組む必要がある。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	

総合 評価	施策の総合評価	B	
----------	---------	---	--

《今後に向けた改善提案等》

<p>・隣接2市（鎌ヶ谷市と印西市）とは今後も一層緊密な連携をしていく必要があります。鉄道運賃、道路網の整備、企業誘致等々3市が一体となって取り組むことが必要になることが多くなることではないでしょうか。</p> <p>また、老朽化していく公共施設の維持管理と役割分担も含めて30万弱の都市圏としての将来像を描く機会が必要と思います。</p> <p>白井市の3分の1の広さの鎌ヶ谷市、鎌ヶ谷市と白井市を合わせた広さの倍以上の広さの印西市。人口が減り、市民が急速に高齢化していく中でのかじ取りを進める中での都市間連携を一つのモデルと進めてみてはと思いました。</p>

■ I 委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組 状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	A	鉄道事業者や沿線地域との連携は引き続き強固な関係を築いてほしい。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かり やすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合 評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

<p>・各バス停にバスロケーションシステムのサイネージを設け、コミュニティバス利用者の利便性をさらに向上させ、利用者増加の足掛かりにできないか。</p>
--

【戦略2-1 「かかわれる農」のまちづくり】

■J委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	新規就農者支援講座を継続して欲しい。研修先農家の熱意を感じた。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	17名参加者に新規就農者になってもらうよう、これからも支援・アピールしてください。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	川の学校、けやき台ビオトープ観察会、体験学習実施の評価
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	白井市の就業者が、講習された結果、受講生の反応はどうですか。 新規就農者を開拓するのは困難ですね。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	問題を捉えられていると思うが、的確に問題解決することが必須ですね。（困難だと思う。）
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	農地のこと。市民に今の現状は理解されているか？（梨畑も縮小されている。）
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	解りやすい記載だと思う。
総合評価	施策の総合評価	B	研修のあり方に工夫が見られる。

《今後に向けた改善提案等》

--

■K委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	就農支援事業者においては、企業支援のみならず、定着支援も必要だと思われるが、目標実現が難しい状況と見受けられる。今後は目標設定の見直しも再考する必要があると思われる。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	市民農園・体験農園開設支援事業において、高い利用率を確保できているのは評価できる。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	一部の事業では成果が上がっているものもあるが、主たる事業での成果が見受けられない。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	

改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	問題点、課題等は理解されていると思われるが、効果的な解決策が見いだせないでいると思われる。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

--

■L委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	成果目標が農地を守ることであればスピード感が重要であると思われる。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	農地や緑を残すことは、自然の豊かな白井市を維持していくことになる。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	白井市がどの程度まで地域の農業に介入できているのかが不透明
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	定性的評価を見る限りでは、全ての取組において、かなり遅れている。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	改善が難しい点を主な原因としているため、解決策を見出しにくい。
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	地域計画（平塚）は重要課題。梨農家が減少していく中で、この先5年後、10年後も梨作りに関わる農家のために、「しろいの梨ブランドイメージ」を発信し続けていくべきである。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	C	みどりの豊かな白井に農業は必要。特に梨畑は白井市の資源ではないか。白井の自然環境と農を守り、次世代につなぐために重要な施策と考えるので、根気よく継続して行ってほしい。

《今後に向けた改善提案等》

--

■M委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	C	

	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	D	生産と消費の多角的な結びつきをめぐる本格的な分析が欠けている。
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	C	農を多角的に拓き、様々な立場がかかわれる入り口・架橋・支援が不足している。

《今後に向けた改善提案等》

・農業振興のトータルなコンセプトとロードマップを明確にし、具体的な戦略のもとに施策を展開していく必要がある。新規就農者・若者後継者など農にかかわるターゲット層に応じた支援・連携を図る必要がある。販路拡大や6次産業化に向けた積極的な働きかけや架橋を行い、市内外の関係者・希望者が積極的に携わっていくことができる道筋を作っていく必要がある。

■N委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	目標があるので取り組みはsしているが、白井市の大きな戦略としての柱と位置付けていくことが難しい状況。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	C	声として『白井のなし』への愛着があるので、若手生産者の声が届く施策を積み上げていくこととは思う。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	若手生産者がネットワークを築き、他の地域の成功事例を導入できるような仕組みを産業振興ネットワーク会議棟でも導入する。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	残念ながら成果は上がっていない。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	当事者から建設的な問題提起がなされていない。
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	

分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	とても分かりにくい状況。
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

--

■O委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	C	
取組状況	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	連携が取れているとは思えない。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	梨のブランド化についても今の目先のことでなく、梨農家が少なくなる前にするからこそ意義がある旨を周知できていない。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	成果が上がっているとは思えない。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	本当に、今後白井市内の農家や農に関わる人々に何をしたいのか（何か必要なのか）が理解されていないのではないか。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

<p>・梨のブランド化は、今は出荷数が多く、市場での価値が高いかもしれないが、このまま白井市内の梨農家が少しずつ減少すれば、市場が思っている出荷数を出せずに衰退する可能性がある。今、梨農家がある程度いる状態だからこそその市場価値なので、将来を見越したうえで、梨のブランド化が必要なことを農家に理解してもらっていない。また、移住者が農業をされている市町村の事例を学び白井でできることを導入する等の検討等。</p>

■P委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	C	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	

	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

--

■Q委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

--

【戦略2-2 みどりを育み活かすまちづくり】

■J委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	A	環境学習の推進事業 特に体験学習が良い。継続して欲しい。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	A	市と市民共同で進めている様子がうかがえる。 関係団体で横のつながりがある。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	A	市の説明（環境を守ると同じに緑を生かした取り組みが良い。）
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	現場の声を聞いていないのでB
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	A	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	A	
総合評価	施策の総合評価	B	市民と生徒の協力を評価した。 谷田・清戸市民整備は今後も期待できる。

《今後に向けた改善提案等》

--

■K委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	市民を主体とした日頃の積み重ねの活動であり、SDGs の考え方も視野に入れた目標実現に資する取組だと思われる。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	活動の担い手は、やや高齢者層が多いように見受けられるが、市民ニーズに即した取組であると思われる。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	個々の団体の連携づくりは今後に期待されると思われる。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	現状では、一定の市民同士や団体内での情報共有にとどまっているように見受けられる。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	継続して行うことで成果を見いだせる事業が多いため、顕著に表れているわけではないが、裾野は広がりつつあると考えられる。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	

改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	長期間の活動においては、新たな課題が生じることもあるため、より活動団体との密接な情報交換をもとに様々な声を把握することが望まれる。
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	現状では、活動団体内での情報共有にとどまっているように見受けられる。活動内容をさらに幅広くPRできる仕組みを構築すると良いと考える。
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

・「沿道みどりの推進事業」は年々活動団体も増え、補助金を使わなくても自力で緑化環境を育成し活動継続に取り組んでいる事例などからみても順調に成果を上げているものと思われる。このことから、PR方法として単なる活動紹介にとどまらず、「活動場所が一目でわかる市内マップ」や「見頃時期の一覧紹介」などに取組み、効果的にPRすることで新たな担い手の発掘や白井市の魅力発信、回遊プランの紹介に発展させられる資源になるものとする。また、「森のグラウンドワーク推進事業」においては、2017年の事業開始以来、市民団体が「市民に親しまれる花壇づくり」に継続して取り組まれていること自体、一定の成果が上げられていると思われる。しかしながら、会員に高齢化に伴い、安定した花壇の維持管理が難しくなりつつある点、とりわけ灌水作業の改善を求める声があることから、市としても市民活動が無理なく安全に継続できるよう対応策を考える必要があると思われる。

■L委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	白井の良質な自然環境を認識し、維持していく上で意味のある取組である。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	みどりが身近にある白井では、環境学習や環境保全は必要である。小中学校での環境学習 etc
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	谷田・清戸市民の森整備事業は、隣接地権者との問題があるため、今後の課題の優先順位を設定し、方向性をもっとクリアにするべきである。
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	B	森・里山・沿道など市民団体と協働して活動を行うことで、自然が管理され環境保全が保たれている。

《今後に向けた改善提案等》

--

■M委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	分野を横断して、環境意識を醸成していく発想が弱く、政策連携にまで発展していない。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	環境や教育といった既存の枠組みにとらわれており、様々な場面において環境を意識できるような全庁的取り組みになっていない。
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

・市民が環境を意識した日常生活を送ることができるための情報発信を徹底させる。自然環境や生物多様性の保全をめぐる、市民や企業がどのように関わるができるか、連携して何ができるかを検討できるプラットフォームの形成が必要である。具体的な取り組みは、「みどり」を通じて学び・働き・地域を豊かにする点で、相互に有機的なつながりを持って捉えられていくことが期待される。

■N委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	市民レベルでの、小さな運動は根付いてはいる。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	緑の維持管理に高齢化する中で担い手を確保していくことが難しくなっていく。
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	市民参加型の一定の成果は得られてはいる。

	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	継続的財政負担を軽減するために選択的公費投入と、自主取り組みの分野との切り分けが今後必要。
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	まちづくり協議会の活動の中で、この分野への取り組みが『緑の里』として進んで行ければとは思ふ。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

--

■O委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	
取組状況	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	連携が取れているとは思えない。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

<p>・緑に関しての活動に関しては、担当課の窓口におくだけでなく、積極的に提案し、会合等を行いながら、団体をつなぐ、もしくは人を増やすことが求められているのではないかと。緑を生かす農については、最近流行っているグランピング等も検討し、都心から近い立地を生かした活動もできるのではないかと。また、高齢者や障害者も含めた社会参加に繋げる工夫も必要なのではないかと。</p>
--

■P委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	C	コミュニケーション不足により、他市町村より個人・団体への情報が伝わっていない。
	市民ニーズに即した取組となっているか。	C	井の中のカワズにならず、他の地域の事例も取り入れるべき。

	各分野間で必要な連携が図られているか。	C	白井地域では、自然や農への関心が低すぎる。教育の問題もあるのではないか。
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	C	白井では、各団体の連携・協力がなすすぎる。特に福祉ボランティアがいない。
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	C	自然環境を維持するには、常に地域を監視していかなくてはならない。神崎川が大変な状況になっているのは知っているのか。
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	C	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	C	多くの人の賛同がなければ何もしないような意見があったが、価値の多様性の時代には合っていない。
	今後の方向性・進め方は的確か。	C	新事業は常に少数から行うのが常識である。やる気が感じられない。
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	C	どんな事業も効果の検証をすべきで結果が悪ければ、方法を変えるべき。
総合評価	施策の総合評価	C	

《今後に向けた改善提案等》

--

■Q委員

項目	内容	評価	その他の視点（自由記入）
取組状況	目標実現に資する取組となっているか。	B	
	市民ニーズに即した取組となっているか。	B	
	各分野間で必要な連携が図られているか。	B	
	市民等と情報を共有し、参加・協働が図られているか。	B	
成果	目標実現に向けて成果は上がっているか。	B	
	1次評価の進捗状況や、遅れている取組がある場合は原因が的確に捉えられているか。	B	
改善	問題・課題が的確に捉えられているか。	B	
	今後の方向性・進め方は的確か。	B	
分かりやすさ	市民に分かりやすい記載となっているか。	B	
総合評価	施策の総合評価	B	

《今後に向けた改善提案等》

--

5 今後の外部評価に向けて

第4回審議会（今回）で協議

（参考）令和4年度実施意見

白井市の行政評価制度の充実に向けて、当審議会の総括的な意見を以下のとおり述べる。

- （1）分野横断的な取組や他の施策との連携が求められる施策については、その具現化に向けた方策と改善状況を明らかにしていきながら、これまで以上に柔軟かつ徹底した姿勢で取り組んでいくことを強く求める。
- （2）各取組において、法的な規制や手続きなど、どのような仕組みとなっていて、市がそれに対してどのように進めてきたのかについても、市民にわかりやすい言葉や表現により説明されるよう、さらなる工夫を求める。
- （3）前期基本計画の段階から、「具体的な計画－指標－進捗管理－評価－フィードバック」というPDCAサイクルの構築に向けて取り組んでいるが、PDCAサイクルが効果的、効率的に循環するよう、また、循環していることが市民に見えるようより一層の工夫が必要である。これまでの当審議会からの意見や提案に対して、市がどのように対応してきたのかについて整理し、さらなる見える化を進められたい。
- （4）社会の変化に柔軟に対応し、目標の達成により近づくため、PDCAサイクルの期間を短くしていく必要がある。
- （5）取組目標の達成に向けて、各事業が具体的にどのように結びついているのかについて、行政が意識して評価を行う必要がある。また、現在実施している事業のみでは取組目標の達成につながらず、新たな事業を行う必要があると考えられる場合、それに充てられる行政資源に余裕があるのか、資源が不足する場合はどのように進めていくべきかも含めて検討する必要がある。
- （6）指標の立て方についても今後評価を行う必要があるが、それを解決するためには根本的に計画の立て方からメスを入れる必要があり、第6次総合計画の策定に向けた課題として強く認識しておく必要がある。

参 考 資 料

施策評価シート(外部評価時点)